

今年も全国的に色々あった成人式だが、北九州メディアドームで開かれた、北九州市の「ど派手成人式」はこの度も大いに盛り上がった。カラフルな羽織袴にリーゼントをキメた野郎どものグループや、胸元をあらわにした花魁姿の女性、レディ・ガガをイメージした髪型のギャルなどが会場周辺にあふれかえった。新成人の一部が、派手な衣装を着て式典に参加することで知られる同市の成人式は、十数年前から始まり、毎年ネットで話題になるそうだが、「きちんとした服装で参加するように」という市による異例の呼びかけも殆ど効果はなかった。缶ビールや日本酒ををガブ飲みする者たち、出身地名を連呼し氣勢を上げる人々、マスコミのカメラマンにポーズをとる若者らでごった返し、式典開始の1時間前から会場周辺は宴会場と化した。

「目立ちたい」「派手なことがしたい」「この格好が好き」と取材に応じる新成人たち。衣装代に10万円程度つき込み、「お金に余裕はないけれど、多少無理をしても、しっかりやりたい。自分たちにとって、成人式は特別なイベント」と語る人も。いっぽうで、これらの喧騒をよそに、式典が行なわれる会場内では静粛そのもの、混乱や妨害が一切ないというから驚く。式典を担当する同市青少年課も「把握している限り、式典を妨害するなどのトラブルはない」という。

“安部やめろ！”で有名な学生団体「SEALDs（シールズ）」や、ハロウィンでお騒がした渋谷の若者たち、はたまたネットで集めた岸和田の暴走族「イレブンスリー」など、徒党を組んで氣勢を上げる若者の話題が最近多い。が、それは今に始まったことではなく、かつて60年代には学生運動の嵐が吹き荒れ、私が成人した時期には竹の子族やヤンキーが大勢いたし、90年代のバブル期には夜ごとディスコで踊り狂う女性たちが話題をさらった。これが若者なのである。

経験が浅く未熟で視野が狭いが、鬱勃としたエネルギーがマグマのように訳も分からず外へ向かって飛び出す。その反対にさしたる意思表示なく進む人々もいる。それぞれの背景や考え方、スタイルがあり、中には犯罪に手を出す者や迷惑を引き起こす者ももちろんいる。

聖書には

「若い者よ、あなたの若い時に楽しみ。あなたの若い日にあなたの心を喜ばせよ。あなたの心の道に歩み、あなたの目の見るところに歩め。ただし、その全ての事のために、神はあなたを裁かれることを知れ。あなたの心から悩みを去り、あなたの体から痛みを除け。若い時と盛んな時はともに空だからである。」伝道者の書 11 章 9 節：口語訳、

とあるように、若者のやんちゃな行動に対し幾分同情的であるといっぽう、実はそれはすぐに過ぎ去り、やがて人生が佳境に入り試練や困難に直面していくことが暗示されている。だからこそ、若いうちに創造者である神を恐れねばならない。周囲に迷惑をかけようがかけまいが、神は全てをジャッジするからだ。時を同じくして、ブラックバイトなどで犠牲になる若者も後を絶たない。今はただ、若者たちが神を信じることを祈り、彼らが逞しく成長するのを見守りたい。

2015-1-20



